

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500023		
法人名	社会福祉法人 楽慈会		
事業所名	西木津ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市木津南後背30番地5		
自己評価作成日	令和5年2月22日	評価結果市町村受理日	令和5年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2693500064-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	京都市右京区西院久田町5		
訪問調査日	令和5年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方がありのまま暮らし続けられるサポートを行っています。コロナ禍に伴い、現在は中止させて頂いていますが、地域での暮らしを大切に続けられるよう、地域の方と一緒に避難訓練や一年を通して盆踊り、大根煮の企画をしています。ワンコインサロン、自施設にてボランティアの方達のカフェ運営など認知症への理解の為、ぬくもりのつどいなど交流を図っています。いつまでも自分のしたい事ができる支援を目標に統一したトランスファを実施し、地域リハビリの活用など筋力低下を防ぐ取り組みや、春はお花見、秋は紅葉に出掛け月ごとの季節行事(新年祝賀会、初釜、節分、夏祭り、敬老祝賀会、音楽祭、クリスマス会)楽しみを持って健康で豊かな生活を送って頂けるよう支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR西木津駅から徒歩10分ほどの住宅街の中にあり、秋には開設10周年を迎えます。外観や内装にも全体的に木材が使用されていることから落ち着いた雰囲気となっており、自宅を思わせる事業所です。法人の変更とコロナ渦の激動の3年間だったと話される中でも、これまでの事業所の良さを大事に、今できることをしようとケアに努めています。法人のフェーズに応じて、推進会議の開催や面会、ボランティアの来所による喫茶、認知症カフェ「ぬくもりのつどい」のzoom開催、地域活動のワンコインサロン開催など柔軟性をもって継続して取り組んでいることは、高く評価できます。地域のための施設、地域の方に愛してもらえ施設を目指し、認知症になっても安心したケアがある、安心な地域にしていきたいと、今後これまでのような地域とのつながりを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所にて理念の掲示し、その理念を共有している。	法人の理念を掲示し共有している。職員で考えた事業所のスローガンは、パンフレットや業務日誌に表記して、意識できるようにしている。現在、法人グループの3か年計画の中で経営理念の作成プロジェクトを立ち上げ、職員からメンバーを募集し、職員アンケートを実施するなど職員参画で作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、フェーズに合わせて開催している。地域行事や施設行事にてボランティアとの関わりや、参加にて継続的に交流している。	生け花教室や、ボランティアの来所による喫茶、認知症カフェ「ぬくもりのつどい」のzoom開催、地域活動のワンコインサロン開催など、コロナ禍の状況に合わせて継続していることから地域とは継続的に交流できている。マスクの寄付や事業所の喫茶のチラシをボランティアの方たちが配布するなどボランティアの協力も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、現在実施出来ていないが、2ヶ月に1回行っているぬくもりのつどいをZOOMで実施し、認知症の方々の悩みに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議の実施。地域包括、市、民生委員、ご家族の参加により、サービスの向上を図っている。	利用者、家族(ユニット毎に2年任期で依頼)、地域住民代表、民生委員、行政、地域包括支援センターなど様々なメンバーの参加のもと2ヶ月に1回開催している。コロナの状況に合わせて書面開催(3回)や木津川市役所、事業所で開催している。書面開催時は写真を付けて報告を配布し、意見が戻ってきたら次回にフィードバックしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き、協力体制を図っている。	日常的に、認定結果やワクチン、会議の相談に訪問している。地域ケア会議(西東の包括に出席)に参加している。市の会議に所長が認知症の有識者として参加している。令和4年度は、運営推進会議を市役所で2回開催するなど協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロという考えが定着している。年2回ではあるが勉強会を行っており、勉強会を通して再確認も出来ている。	高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ推進のためのマニュアルを更新中。身体拘束の勉強会は年に2回開催し、アンケートを実施している。参加できない職員には録画講習を実施している。事業所内で係をつくって毎月、取り組みを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様。勉強会の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に勉強会も行っている。ご利用者すべての方が不自由する事無く暮らしていけるよう使える支援は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、職員が責任を持って契約をし、ご家族の理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族との連絡を密にし、ご利用者へのサービス提供やリスクを共有している。日々の連絡を密にし、ご家族の意見を出して頂いている。	利用者や家族の声を聞く機会として運営推進会議で意見交換している。衣替えなど来訪時に状況報告し、聞き取った意見は職員間で共有している。利用者の意見は、直接言われたことや日々の様子から把握し、その内容は申し送りノートでこまめに共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やGH会議、又、いつでも意見が出し合えるよう連携を行い進めている。働きやすい職場づくりの為にアンケートも行っている(らくじの窓等)	職員の意見や提案は、職員会議やGH会議(月1回)を聞き取る機会としている。面談は年1回実施されるが、必要に応じて随時対応している。意向の確認や経営理念の作成、福利厚生などについても職員アンケートを実施し、意見や提案を反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行っている。希望休が月4回取れる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会の実施。新人職員に向けた育成評価表があり、平等に取り組める環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学、研修を行っていたが現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に話を聞き取り、アセスメントを作成。ご本人の生活習慣を変える事無く、ご要望や想いを提供。その上で関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望を聞き、家での様子・生活歴等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を聞き、必要としている事を管理者はじめ、全職員で考え共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大切にし、自分の出来る事を見つけて出来るように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族、施設スタッフの三者で支え合い、全員が役割を持ち関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今まで大切にされてきた生活習慣をなるべく変える事無く、いつまでも安心して暮らせる支援に努めている。	入所時に事業所独自の様式で生い立ちや生活史などを把握し、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。コロナ前は知人の来訪があったが、コロナ禍では新聞を届ける人がいる程度となっている。電話の取り次ぎや年賀状、手紙のやり取りなども支援している。秋にはコスモス畑へドライブに行き、その際に自宅をまわっている。家族とは受診の際に過ごされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の生活歴・価値観・生活習慣や個別性を大切にして馴染みの関係をつくり支え合えるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、相談や支援を行い継続した関係性を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間シートを活用し、職員全体で一人ひとりの思い、希望の把握に努めている。又、日々の行動や表情、言葉から思いを汲み取り確認する様になっている。	24時間シート、私の姿シートを活用して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な方は普段のかかわりの中で、言葉や行動、表情や仕草からサインを読み取るように努めている。職員全員で共有できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、入所時に今までの生活歴、既往歴など詳しくシートに記入して頂き情報を共有している。面会時、ご本人のことを聞く事もできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察、カンファレンスを行い、職員間の連携を密にすることにより、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間シートを使用し、ご本人の声を引き出し、それを元にケアプランを作成し実践している。会議の中で職員が意見を出し合いながら、現状のご本人に合った暮らしに近づけるようケアプランの見直しも行っている。	入所時にケアマネジャーが丁寧に聞き取っている。家族、利用者の意見は、コロナ渦前は、面会時に職員全員の家族カンファレンスを実施していたが、コロナ渦では電話で聞き取っている。会議の中で意見を出しあってケアプランを作成している。3か月に1回担当職員が評価して見直している。IPADでケアプランが随時把握できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadへの記録・申し送りノートの記入など情報を共有し、又、3ヶ月に1回ケアプランのモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況をしっかりと観察し、その時に合わせた対応を行い、柔軟な支援が行えるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状はコロナの影響で中止されているが、ワンコインサロンや地域行事の参加、近隣とのお付き合ひ、手芸サークル、習字、生け花等ボランティアの方の協力の元、暮らしを楽しめるように努めている。必要に応じて地域リハビリの活用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、往診を継続してもらっている。 必要時、かかりつけ医・家族・所長・看護師・スタッフが参加しカンファレンスを実施するなど連携を密にしている。	かかりつけ医へは月に2回、往診や受診してもらっている。(今後は法人内のクリニックへの1本化を検討。)専門医への受診は家族対応で、医師あてに手紙を書いて、家族にも目を通してもらっている。結果は家族から聞きとり申し送りノートに記入し、医師には確認の電話をしている。法人の歯科医による訪問が月に2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こまやかな変化や日常的なことに至るまで報告でき、体調面で変化があった時の対応が早く、利用者に安心・安全な環境が提供出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご利用者様の状態を確認し、退院前カンファレンスに参加し、現状の把握に努めている。病院の相談員とはこまめに連携をとり、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて主治医、職員が連携をとり、家族・主治医の参加するターミナルカンファレンスを実施し、事業所が対応し得るターミナルケアについて説明を行っている。週末期には本人と家族とのふれあいを大事にして、納得され最期が迎えられるように努めている。重度になられた時の希望は随時確認している。他の利用者の影響については、悲しみを分かち合い心を支えるケアを行っている。	入所時に重重要事項説明書の項目と「重度化対応及び看取り介護指針」を渡して説明している。決定は医師に相談して、家族とターミナルカンファレンスを実施し、「看取り介護についての同意書」「看取り化愛護の内容」で説明して同意を得ている。ターミナル後には、会議の中で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議、勉強会等で訓練や対応について話し合っている。AED設置。AEDの勉強会の実施。マニュアルを作成し迅速な対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を設置しマニュアルを作成しています。年2回消火訓練、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施。避難訓練に地域の方の参加協力をお願いしている。地域福祉避難所に指定されていて、地域の協力体制も整っています。また地域の要望によりAEDも設置しています。AEDの勉強会の実施。	消防訓練は年に2回昼夜想定で実施し、水防訓練は年1回実施している。以前は大根煮の炊き出し時に消防訓練を行い、地域からの参加や、小学生と体験会を実施していた。今年度から再開を予定している。備蓄はBCPと合わせて法人が管理している。毛布、オムツなどは多めに保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、意識しながら、一人一人を尊重し、プライバシーを侵害しないような言葉使い、対応、記録などを行っている。 言葉使いについての勉強会を職員間で実施している。	研修を実施して確認するしきみがある。言葉使いについてのアンケートを実施し、振り返って話しう機会がある。スピーチロックや不適切ケアがあった場合は、職員間で話しあっている。接遇については、法人が変わったことで「なあなあ言葉」を見直している。隠語を使用するなど一人ひとりの尊重やプライバシーには、常に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いが率直に言える関係性を築くように努めている。本人が決める機会を作り、その聞き方も工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	待つ介護を心掛け、ご本人のペースを大切にしながら寄り添ったケア実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服選びや化粧水等、細やかな支援ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嚥下能力や義歯の調節を行い、おいしく食べられるよう支援している。 らくじ歯科で対応	食事は法人のセントラルキッチンで管理されており、とろみ、刻み、ソフト食にも配慮されている。行事食は月に1回実施し、誕生日は手作りケーキで祝っている。片づけは、キッチンの前の低い流しで各々で行っている。家族との外食はOKしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水を防ぐ為、細胞への吸収の良い補水液やスポーツドリンクをご家族に依頼し、個別対応を行っている。食事量・水分量を把握し少ない場合より水分補給を促している。体重の増減への配慮も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアをして頂き、清潔保持に努めている。歯科による定期受診時の指導の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを知り、声掛けやトイレ誘導を行っている。最期までトイレに行くことを大切にしながら支援している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導や声掛けを行い、見守りのもとトイレでの排泄を支援している。(オムツを使用している人はいない。)夜間もポータブルトイレを利用して自立した排泄の支援をしている。隠語を使うなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレでの職員介入時、マッサージを実施し便秘予防に努めている。必要に応じて便薬も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の実施。ご本人の希望により入浴できるよう心がけている。同性職員介助希望にも対応している。個浴を使用しご自身でしっかり浴槽に出入りして頂く等、下肢筋力の維持、リハビリにも繋がっている。	週に2回、基本的に午前中の中入浴としているが、午後を希望される方には、15時頃までではあるが対応している。同性介助を希望される方は、他のユニットの職員と調整して対応している。拒否される方には、話した感じで判断したり、パターンを把握するなど努めている。季節が楽しめるように柚子湯、菖蒲湯などを実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息の時間を作っている。夜間は、こまめな巡視と必要に応じてトイレの声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者様の服薬一覧表ファイルがユニット別に設置されている。臨時薬や追加、変更があった場合、随時、看護師より申し送りがある。服薬チェックリスト使用。服薬確認の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きなこと等を聞き取り実施して頂いている。現在中止しているが、以前は地域のボランティアの協力を得てサークル活動や月2回の喫茶等も定期的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常、散歩やテラスに出て外の空気を吸って頂く機会を作っており、ボランティアの方の協力も得ている。	4月は花見で桜餅を楽しんだり、秋にはコスモス見学へ行っている。また通院時には家族と外出されている。日常では、職員と一緒にゴミ捨ての際に育てた花を見たり、テラスでお茶を飲むなど外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心感と意向もあり現金を持っておられる方もおられが使われる機会は現状ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡は職員がすることが多いが要望があれば架電している。葉書を出される方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と一緒に清掃を行い、清潔を保ち、カーテンにより光の調整や除菌・脱臭機能のあるジアイノの設置など快適に過ごして頂けるように対応している。季節を感じるような飾りや植物を置き、居心地よい空間作りを心掛けています。	共有部の奥にソファが設置されるなど、思い思いに過ごせる場所がある。朝はモップかけを、夜はほうきかけを職員と一緒にしている。玄関やユニットには季節の花が生けられている。事業所独自の体操を動画で流して、からだを動かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じパーテーションを使用しセミセパレート的空間を作っている。廊下や玄関にソファを置きリラックスして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご仏壇や使い慣れた家具や日用品を持ってこられ、ご本人の生活を大切に居心地良く過ごしていただけるような工夫をして頂いている。安全面に配慮したレイアウトも行っている。	洗面台、ベッド、エアコンは設置となっているが、テレビやラジカセなど馴染みのものや好みのもを持ち込んでもらっている。クローゼットに収納できることから居室内は整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドはご本人が立ち上りやすい高さに調節を行い手すりの設置、トイレ、風呂に一人で立てるようにファンテーブルの設置。フロアには、ご本人の高さに合した椅子、テーブルを設置し、自らの力で出来るだけ動き、自立した生活が送れるように支援している。		